

2024年(令和6年)度 事業報告書

2024年4月1日より2025年3月31日まで

第1 公益目的事業

定款第4条に掲げる事業は、次の計画により行った。

公1 がんに関する学術研究集会の定期開催、ならびに海外学術調査研究事業

① 国際がんシンポジウム事業(第42回)

第42回国際がんシンポジウムは2024年6月6日～8日の3日間、国内外から31名の研究者を招き、12のセッションと38演題のポスター発表がなされた。会場はグランドメルキュール札幌大通公園、テーマは「がんのクローン進化の理解と、それに基づく高精度医療の実現 (Deciphering Clonal Cancer Evolution toward Precision Cancer Medicine)」、代表世話人は国立がん研究センター理事長の中釜斉氏で、141名の参加者を得て盛会裏に終了した。

② 冬季がんセミナー事業(第39回)

2025年1月25日(土)、道内外から8名のがん研究者を招き、ハイブリット形式で開催した。テーマは「いまがんを考える 2025—最新科学がもたらした診断治療の進歩を患者さんに届けるために—」、代表世話人は北海道大学病院乳腺外科教授の高橋将人氏で、会場で44名、WEBで79名、計123名の参加者を得て盛会裏に終了した(大鵬薬品工業(株)との共催)。

③ 市民がつくる春のがんセミナー事業

2025年4月5日(土)、北海道医師会館8階会議室にて開催した。札幌医科大学医療人育成センター准教授の加茂憲一氏、北海道がんセンター統括診療部長の丸山覚氏のお2人にご講演をいただき、50名の参加者で盛会裏に終了した(北海道医師会との共催)。

公2 がん予防・啓発、ならびにがん相談事業

④ がん啓発・予防事業

札幌市教育委員会と連携して、インセンティブ・ファンドを札幌市内の小学校3校(新札幌わかば小、手稲西小、幌南小)、中学校3校(美香保中、日章中、手稲西中)の計6校に支給し、活動を行ってもらった。

出前授業を行う外部講師への支援事業は札幌市保健所と連携し、応募のあった小学校16校、中学校1校、高等支援学校1校の計18校へ支援した。講師の内訳は医師13名、看護師2名、がん経験者3名であった。なお、謝金の支給は札幌市保健所から行っており、当財団としては事業支援のみ。

また、がん患者及び家族への無料相談を事務局にて行った。

⑤ 広報関連事業

広報誌 The Way Forward を年2回作成し、関係機関へ配布した。その他、ホームページの更新などを行い、財団活動を広く周知した。

公3 医学・医療・福祉など関係の学会研究の助成事業

⑥ 学会助成・表彰事業

学会助成については本年度は申し込みがなかったため助成事業は行わなかった。

表彰事業については、長年医療を通じて社会に貢献している個人に対し表彰を行った。また札幌市保健所と提携して市井で健康増進活動に尽力している4団体を選考し表彰を行った。